

めざそう!“元気で長生き”

～健康長寿のヒント～

2023
9.2
SAT

14:00～16:00

定員：300名

入場無料



Program

アクロス福岡 国際会議場

福岡市中央区天神1-1-1 TEL:092-725-9113

1.開会のことば

公益社団法人福岡県病院協会 会長
九州大学病院 病院長

中村 雅史

2.シンポジウム

座長

国家公務員共済組合連合会浜の町病院 病院長

谷口 修一

国家公務員共済組合連合会浜の町病院 副院長

大城戸政行



講演1

「健康寿命延伸とwindow-骨粗鬆症と関節疾患-」

国家公務員共済組合連合会浜の町病院
診療部次長

馬渡 太郎 先生



講演2

「脳卒中の予防と治療-福岡県の循環器病対策推進計画とともに-」

独立行政法人国立病院機構九州医療センター
副院長

岡田 靖 先生



講演3

「元気で長生き、がんに負けないために今できること “がん予防とがん検診”」

公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構 常務理事
ガーデンシティ健診プラザ センター長

松浦 隆志 先生

質疑応答

3.閉会のことば

公益社団法人福岡県病院協会 副会長
福岡大学病院 病院長

岩崎 昭憲

主催 公益社団法人福岡県病院協会

後援 福岡県、福岡市、(公社)福岡県医師会、(公社)福岡県薬剤師会、(公社)福岡県看護協会、(公社)福岡県栄養士会、(公社)福岡県診療放射線技師会、(公社)福岡県理学療法士会、(公社)福岡県作業療法協会、(一社)福岡県言語聴覚士会、(公社)福岡県歯科医師会、(一社)福岡県臨床衛生検査技師会、(一社)福岡県私設病院協会、(一社)福岡県精神科病院協会、(一社)福岡県医療法人協会、(一社)福岡県薬剤師会、日本糖尿病協会福岡県支部、(一社)福岡市医師会、(一社)福岡市歯科医師会、(一社)筑紫医師会、(一社)粕屋医師会、(一社)糸島医師会、(一社)宗像医師会、西日本新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、NHK福岡放送局、(株)福岡放送、RKB毎日放送、(株)テレビ西日本、九州朝日放送、テレQ (順不同)

・ご来場の際は、マスクの着用をお願いします。・発熱や咳など、体調がすぐれない場合は参加をお控えください。・新型コロナウイルス感染状況により、中止となる場合があります。

主催 公益社団法人福岡県病院協会 TEL 092-436-2312 URL <http://www.f-kenbyou.jp>

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号福岡県メディカルセンタービル 2階

目 次

ご挨拶	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	公益社団法人福岡県病院協会 会長 九州大学病院 病院長	中村 雅史
開催にあたって	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	第14回県民公開医療シンポジウム 運営委員長 公益社団法人福岡県病院協会 副会長 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 顧問	一宮 仁
座 長	国家公務員共済組合連合会浜の町病院 病院長 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 副院長	谷口 修一 大城戸政行
講演1	「健康寿命延伸とWindow-骨粗鬆症と関節疾患-」 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 診療部次長	3 馬渡 太郎 先生
講演2	「脳卒中の予防と治療 -福岡県の循環器病対策推進計画とともに-」	6
	国立病院機構九州医療センター 副院長 福岡県循環器病総合支援センター実務統括者	岡田 靖 先生
講演3	「元気で長生き、がんを負けないために今できること “がん予防とがん検診”」	8
	公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構常務理事 ガーデンシティ健診プラザ センター長	松浦 隆志 先生
質疑応答	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
閉会のことば	公益社団法人福岡県病院協会 副会長 福岡大学病院 病院長	岩崎 昭憲

ご挨拶

公益社団法人 福岡県病院協会

会長 中村 雅史

(九州大学病院 病院長)



本日は、残暑厳しく、また、お忙しい中、「第14回県民公開医療シンポジウム」にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

福岡県病院協会は、地域医療の普及向上と県民の皆様の健康増進に寄与することを目的に、1950年（昭和25年）全国に先駆けて設立され、2013年（平成25年）4月からは公益社団法人として活動しております。

「県民公開医療シンポジウム」は、当協会が公益目的事業の一環として2007年（平成19年）から県内各地で開催しているものであり、本年度で14回目となります。

この3年間は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、やむなく中止といたしました。ようやくコロナ禍を克服する方向に向かい日常生活を取り戻しつつあるなか、本日再び開催できることを嬉しく思います。

さて、今回のシンポジウムのテーマは、「めざそう！”元気で長生き”～健康長寿のヒント～」です。人生100年時代を迎えていますが、健康寿命を延ばし、できるだけ健やかに自立した生活で人生を楽しむことがとても大切ではないでしょうか。

本日は、健康長寿のヒントを知っていただくため、骨粗鬆症と関節疾患、脳卒中、がん予防とがん検診、各分野で豊富な経験と高い知見をお持ちの先生方にご講演いただきます。どのお話も、最新の知見に基づく、大変興味深いお話になるものと期待しております。また、講演終了後には、皆様方からのご意見や質問をお受けして先生方がお答えする「質疑応答」の場も設けております。これを機に、健康長寿に対する皆様の理解が深まり、皆様が健やかに自立した生活を送るための一助になれば、幸いに存じます。

当協会は、県民の皆様に医療や医療制度を正しく理解いただけるよう、活動を続けて参ります。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

開催にあたって

第14回県民公開医療シンポジウム運営委員長
公益社団法人福岡県病院協会 副会長
国家公務員共済組合連合会浜の町病院 顧問
一宮 仁



本日は、福岡県病院協会が主催する第14回県民公開医療シンポジウムにご参加いただきありがとうございます。

福岡県病院協会は地域医療の普及向上と県民の健康増進に寄与することを目的に昭和25年に設立されました。当会の重要な事業の一つである県民公開医療シンポジウムの開催は、県民の皆様は医療に関する正しい情報を直接お伝えするとともに皆様からのご質問やご要望にお答えすることで、皆様の健康増進に結びつくことを目的として、毎年1回、福岡、北九州、筑豊、筑後の各ブロックが持ち回りで担当しています。2020年以降、福岡市での開催が予定されましたが、3年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止・延期を繰り返しました。今年は4年ぶりに国家公務員共済組合連合会浜の町病院が担当して開催することになりました。

2020年以来、シンポジウムのテーマを「めざそう！“元気で長生き”～健康長寿のヒント～」として計画してきました。

この3年間のコロナ禍で、検診率の低下による進行がんの増加、生活様式の変化による脳卒中のリスクの増加、外出制限や運動不足による運動能力の低下、平均寿命の縮みなども報告されています。そこで、今回は、改めて、生命を脅かしたり、長い療養生活により健康寿命の延伸を阻害する疾患である、がん、脳血管障害、そして生き生きとした日常活動を維持するための関節・骨疾患、それぞれの予防や治療などについて、経験豊富な3名の先生に判りやすくご講演をいただきます。

今回のシンポジウムが、県民の皆様の健康増進のヒントとなり、ウイズ・コロナ、ポスト・コロナの時代をお元気で健やかに過ごされることを願ひまして、運営委員長としてのご挨拶とさせていただきます。

めざそう！“元気で長生き”

～健康長寿のヒント～

座 長

国家公務員共済組合連合会浜の町病院 病院長 谷口 修一

国家公務員共済組合連合会浜の町病院 副院長 大城戸政行

健康寿命延伸とWindow —骨粗鬆症と関節疾患—

国家公務員共済組合連合会浜の町病院
診療部次長

馬渡 太郎 先生



“健康寿命”

健康寿命とは、WHOが提唱した新しい指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間で、「介護など他人に頼らずに自立して日常生活を送れる期間」のことをいいます。最新の日本人の平均寿命（2020年報告）は、男性81.05歳、女性87.09歳となっていますが、日本では寝たきりの期間が欧米各国と比べても長く、平均寿命と健康寿命の差は、男性で約8年、女性で約12年ほどとされています。65歳以上の要介護者は年々増加しており、2023年5月推計データから算出した要介護認定を受ける人の割合は、男性/女性で、70-79歳で5.7%/5.4%、80-89歳で18.9%/26.8%、90歳以上では45.4%/63.9%となります。介護が必要となった原因（2022年）としては、現在の要介護度別にみると、「要支援者」では“関節疾患”が19.3%で最も多く、次いで“高齢による衰弱”が17.4%、「要介護者」では“認知症”が23.6%で最も多く、次いで“脳血管疾患”が19.0%と報告されています。（厚生労働省、総務省、内閣府）

健康寿命の延伸のためには、多面的アプローチが必要ですが、“骨折・転倒、衰弱、関節疾患”に関しては、骨粗鬆症対策と歩行能力に直接関係する関節疾患への対策が重要になります。

“骨粗鬆症”

骨粗鬆症とは、骨量が減って骨が弱くなり骨折しやすくなる疾患で、日本には1,590万人（男性410万人、女性1,180万人）以上の患者さんがおり、70歳代では3人に1人、80歳代では2人に1人が該当するといわれています。骨粗鬆症になっても痛みは無いことが多いのですが、転ぶなどのちょっとしたはずみで骨折しやすくなります。骨折すれば痛いですが、脊椎圧迫骨折は何故か2/3の人が骨折しても痛みを感じないことが報告されています。若い頃から2cm以上身長が縮むと、既に骨折して

いるかもしれません。50歳以上の日本人女性が生涯に骨折する確立（ライフタイムリスク）は、脊椎で37%、必ず手術が必要になる股関節で17%と報告されています。

加齢に伴い骨量が減少していくのは避けられず、牛乳や食事、運動のみでは治療効果がほとんど無いことが分かっています。したがって骨粗鬆症治療は“若返り治療”と言えます。近年多くの骨粗鬆症治療薬が登場し、骨量を増やし、骨折を予防できることが可能になってきました。しかし治療が必要な人の20～30%しか実際に治療を受けていないことがわかっています。

「歩く」ということ

歩くことは極めて基本的な人間の機能です。要介護期間をできるだけ短くして健康寿命を長く保つためには、「歩ける」ことは非常に重要であり、糖尿病、肥満、骨粗鬆症、消化器機能、認知症、各種癌など、多くの疾患との関連が報告されています。特に荷重関節である股関節や膝関節の障害は、歩行のみならず、直接寝たきりや命に関わる問題です。

関節疾患

関節疾患の原因として最も多いのが、変形性関節症です。日本人の股関節は、生まれつき骨盤側のくぼみが浅い“寛骨臼形成不全”であることが多く、変形性股関節症の原因となります。また日本人の膝関節はO脚であることが多く、変形性膝関節症の原因となります。股関節や膝関節には日常生活で体重の5倍以上の荷重がかかっていることがわかっており、軟骨の変性・摩耗は徐々に進んでいきます。症状は一時的に軽快することもあります。ほとんどは慢性進行性に悪化してきます。

近年、関節の手術は大きく進歩し、股関節や膝関節に対する人工関節置換術では、手術翌日から歩行訓練を開始し、2週間程度で退院できるようになってきています。また以前は10年程度で再手術が必要なこともありましたが、近年は材料と手技の進歩で、術後20～30年以上の耐久性が期待されています。

手術を受けたくないために関節の痛みを我慢して生活を続けていると、変形は進行し、筋力は低下するうえ、周囲の股関節や膝関節、さらに背骨まで破綻してしまうことがよくあります。したがって、手術にも適切な時期というものがあります。

本講演では、骨粗鬆症と関節疾患について概説します。これらの治療で皆様が長く元気に人生を過ごせることを願っています。

略 歴

- 1993年 九州大学医学部 卒業、九州大学整形外科学教室 入局
- 1995年 九州大学大学院医学系研究科外科系専攻博士課程
- 1999年 九州大学医学部附属病院 整形外科 医員
- 2000年 九州厚生年金病院 整形外科 医長
- 2001年 九州大学医学部附属病院 整形外科 助手
- 2003年 米国スタンフォード大学 整形外科 研究員
- 2006年 国立病院九州医療センター 整形外科 医員
- 2006年 九州大学医学部附属病院 整形外科 助手
- 2011年 九州大学病院 整形外科 講師
- 2012年 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 整形外科 部長（現職）、
九州大学医学部 非常勤講師（現職）
- 2018年 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 リハビリテーション部 部長（兼務）
- 2023年 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 診療部次長（兼務）

所属学会

日本整形外科学会、米国整形外科学会、米国骨代謝学会、日本股関節学会、
日本リウマチ学会（評議員）、日本骨粗鬆症学会（評議員）、日本骨代謝学会（評議員）、
日本人工関節学会、日本リハビリテーション医学会、西日本整形災害外科学会 など

脳卒中の予防と治療 —福岡県の循環器病対策推進計画とともに—

国立病院機構九州医療センター副院長
福岡県循環器病総合支援センター実務統括者

岡田 靖 先生



循環器病とは高血圧や糖尿病、悪い生活習慣などに関連して生じる脳卒中や心臓病のことです。福岡県では毎年、脳卒中・心臓病等で年間1万人以上の方がなくなっています。福岡県の循環器病対策推進計画は2022年3月に策定されました。その目標は元気で長生き（健康寿命）を延ばすこと、脳卒中や心臓病で亡くなる方を減らすことです。また2023年から福岡県の委託事業で福岡県循環器病総合支援センターが設置され、地域の脳卒中センターでは患者さんご家族の相談窓口も徐々に普及しています。本日の講演前半では脳卒中になったらすぐに救急車を呼ぶ、病院では薬物治療や手術、リハビリを受けること、医療施設は急性期—回復期—生活期で情報共有して医療連携していることなどをご紹介します。後半では脳卒中にならない、再発しないための生活上の注意点など、脳卒中予防10か条の項目を中心に解説します。

略 歴

1982年 九州大学医学部卒業 九州大学病院研修医（第二内科）
1984年 国立循環器病センター内科脳血管部門
1992年 米国スクリプス研究所客員研究員（2年間）
1994年 国立病院九州医療センター脳血管内科医長
1999年 厚生省九州地方医務局医療課長（2年間併任）
2004年 国立病院機構 九州医療センター統括診療部長
2018年 同 副院長

学会活動等

日本脳卒中学会（名誉会員、2017-19理事）、日本脳ドック学会（理事）、
日本老年医学会（代議員）、日本医療マネジメント学会（評議員）、
日本血栓止血学会（代議員）、日本心血管脳卒中学会（運営委員）など

社会活動等

公益社団法人日本脳卒中協会福岡県支部長
福岡市医師会勤務医会理事、
福岡市保健福祉審議会委員、
福岡県メディカルコントロール協議会委員、
福岡県循環器病対策推進委員会委員、

院内では循環器病総合支援センターの実務統括者を務め、脳卒中・心臓病の相談窓口や研修事業を推進し、
院外では脳卒中・循環器病の予防・啓発の推進に力を注いでいる。

講演 3

元気で長生き、がんに負けないために 今できること“がん予防とがん検診”

公益財団法人 ふくおか公衆衛生推進機構 常務理事
ガーデンシティ健診プラザ センター長

松浦 隆志 先生



日本人の死亡原因の第1位は「がん」です。日本では一生のうち2人に1人が「がん」にかかり、男性では4人に1人、女性では6人に1人が「がん」で亡くなると言われています。一方、「がん」は早期発見・早期治療により治癒が可能な病気です。がん検診の有効性が証明されているのは、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんの5種類で、これを5大がんと呼んでいます。国立がん研究センターの2022年のがん死亡者数予測では第1位が肺がん、2位が大腸がん、3位が胃がんで、女性に限ると1位が大腸がん、2位が肺がん、3位が膵臓がんとされています。

最近まで、新型コロナウイルス感染症への懸念から、がん検診の受診控えの傾向が指摘されていました。感染症は一部重症化して死亡に至る場合もありますが、多くは免疫や治療薬、対症療法によって治癒します。一方、「がん」は何もしなければ、確実に進行して亡くなります。

がん死亡を減少させるためには、定期的ながん検診を受診し、早期発見・早期治療を行う必要があります。ところが、がん検診の受診率は、アメリカがおよそ8割に対して、日本は約4割という調査結果があります。日本人は「時間がない」「健康に自信がある」「必要なときはいつでも受診できる」と考えがちです。がん検診が命を守るという意識を是非持っていただきたいと思います。

特に働く世代をがんから守るためには、職場での検診状況を把握する必要があります。しかし職域検診は、正確な状況を把握できていないのが実情です。きちんとがん検診を受けているのか？その後、必要に応じて精密検査を受診しているのか？その結果は？現状ではこうした点を正確に管理するシステムが構築されていません。

私見ですが、検診歴や投薬歴を一元管理できるマイナンバーカードの活用も一つの方法ではないかと考えています。今後は職域におけるがん検診、そして精密検査の状況を把握できる精度の高い体制を整備し、がん死亡率の減少につなげてほしいと考えています。

CT検査は、放射線を利用して体の断面を撮影する検査です。現在、CT画像の精度は非常に高く、早期のがんを発見することが可能です。

肺がんは、早期発見が難しいがんです。胸部X線検査も大切ですが、X線で発見できるのは、ほとんどがステージ2以降で、ステージ1で発見するのは難しいのが現状です。CT検査なら、見つけにくいがんの早期発見が可能です。

また、大腸がんの精密検査として大腸内視鏡検査が第一選択ですが、「大腸内視鏡検査は痛い。恥ずかしい」と受診をためらった結果、がんが進行した状態になって見つかる方もいます。大腸CT（CTコロノグラフィー）なら、前処置は必要ですが、後は寝ているだけです。痛みや恥ずかしさもなく、内視鏡検査をためらっている方も、気軽に受診いただけます。CT検査では、肝臓がんや腎臓がんなど、そのほかのがんの検出も可能です。CT検査を「特別なもの」と考えず、気軽に利用してください。

胃がんの原因の99%はピロリ菌と言われています。内視鏡検査および血清抗体価あるいは尿素呼気検査で陽性であれば除菌治療を行うことで発がんリスクを3分の1に低減できます。

がんは予防できる病気です。これまで説明してきた、早期発見・早期治療のためのがん検診は「2次予防」です。「1次予防」は、がんにならないための生活習慣づくりです。成人病予防はがん予防でもあるのです。以下の6つの鉄則を十分に理解して実践し、定期的ながん検診を受けることによって、がんに負けず、元気で長生きすることが可能となります。

がん予防のための6つの鉄則

- | | |
|------|--|
| 喫煙 | たばこは吸わない。他人のたばこの煙も避ける |
| 飲酒 | 節度のある飲酒をする。 |
| 食事 | 減塩を心がけ、バランスよく食べる。熱いものは冷ましてから |
| 身体活動 | 日常生活で可能な限り体を動かす時間を増やす |
| 体格 | 体重を適正な範囲に維持（太りすぎない、やせすぎない） |
| 感染 | 肝炎ウイルス検査を受け、感染している場合は専門医に相談を。
(肝がん予防) 機会があれば、ピロリ菌検査を（胃がん予防）。
ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの定期接種を（子宮頸がん予防） |

略 歴

1980年 九州大学医学部放射線科
1981年 産業医科大学付属病院放射線科
1982年 九州大学医学部放射線科
1983年 佐賀医科大学医学部放射線科
1984年 九州厚生年金病院放射線科
1985年 九州大学医学部放射線科
1989年 国立大分病院放射線科（現 大分医療センター）医長
1996年 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 放射線科部長 兼 内視鏡担当部長
2014年 同 副院長
2019年 公益財団法人 福岡県すこやか健康事業団 福岡国際総合健診センター 所長
2020年 公益財団法人 ふくおか公衆衛生推進機構 常務理事 健康事業局長
2023年 同法人 ガーデンシティ健診プラザ センター長・診療所長

学会活動：

日本医学放射線学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医
日本消化器がん検診学会指導医 日本超音波医学会指導医
CT 肺癌検診認定医 人間ドック専門医研修施設指導医

医師会関係

福岡県集団検診協議会胃がん大腸がん部会委員長 福岡地区胃集検読影研究会委員長
福岡市医師会消化管検診委員会委員 福岡消化管造影懇話会世話人
福岡ブロック大腸精検懇話会世話人 福岡市医師会放射線科医会会長



国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

病院長 谷口 修一

〒八一〇一八五三九
福岡市中央区長浜3丁目3番1号
電話 (〇九二)一七二二一〇八三二
FAX (〇九二)一七二二一〇八三二
E-mail info@hamanomachi.jp
URL https://hamanomachi.kkr.or.jp/

2023年12月 福岡大学病院新本館竣工



病院長 岩崎 昭憲

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45-1
TEL 092-801-1011
FAX 092-862-8200
病院HP <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



医療法人 敬天会 武田病院

理事長・院長 武田 卓

〒八一四一〇一〇四
福岡市城南区別府4丁目5番8号
電話 (〇九二)一八二二一五七一
FAX (〇九二)一八二二一五七一
E-mail keiten.hospital@herb.ocn.ne.jp
URL <http://keitenkai.sakura.ne.jp/>

地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市立こども病院

院長 楠原 浩一

〒八一三一〇〇一七
福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号
電話 (〇九二)一六八二一七〇〇〇
FAX (〇九二)一六八二一七三〇〇〇
E-mail f-kodomo@fcho.jp
URL <https://childhp.fcho.jp>

特定医療法人財団 博愛会

博愛会病院

院長 横田 昌樹

〒八一〇一〇〇三四

福岡市中央区笹丘1丁目28番25号

電話 (〇九二)一七四一―二六二六

FAX (〇九二)一七四一―二六二七



福岡ハートネット病院

院長 樋口 雅則

〒八一九一〇〇〇二

福岡市西区姪の浜2丁目2番50号

電話 (〇九二)一八八一―〇五三六

FAX (〇九二)一八八三―八七六一

URL <https://heartnet-hp.jp>



医療法人 徳洲会

福岡徳洲会病院

院長 乗富 智明

〒八一六一〇八六四

福岡県春日市須玖北4丁目5番地

電話 (〇九二)一五七三―六六二二

FAX (〇九二)一五七三―一七三三

E-mail tokushu@cst.ne.jp

URL <https://www.f-toku.jp>



医療法人ユーアイ

西野病院

院長 西野 豊彦

〒八二〇一〇二〇六

福岡県嘉麻市鴨生532番地

電話 (〇九四八)一四二―一一一四

FAX (〇九四八)一四二―四七九〇

E-mail nishino1114@miracle.ocn.ne.jp

地方独立行政法人 福岡市立病院機構

福岡市民病院

院長 堀内孝彦



〒八一二一〇〇四六
福岡市博多区吉塚本町13番1号
電話 (〇九二)一六三二一一一
FAX (〇九二)一六三二一〇九〇〇
E-mail shiminbyoin@fcho.jp
URL <https://shiminhp.fcho.jp>



医療法人

西福岡病院

救急病院開放型病院臨床研修病院指定

日本医療機能評価機構認定病院3rdG(Ver2.0)



理事長 安藤文英
院長 渡邊憲太郎

〒八一九一八五五五
福岡市西区生の松原3丁目18番8号
電話 (〇九二)一八八一―一三三三一
FAX (〇九二)一八八一―一三三三三
E-mail jim@nishifukuohp.or.jp
URL <https://nishifukuohp.or.jp>

医療法人 原三信病院

院長 原直彦

〒八一二一〇〇三三
福岡市博多区大博町1番8号
電話 (〇九二)一二九一―三四三四
FAX (〇九二)一二九一―三四二四
URL <http://www.harasanshin.or.jp/>



杉循環器科内科病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院
救急病院・指定自立支援医療機関(更生医療)

医療法人 シーエムエス

理事長 杉健三
院長 大内田昌直

〒八三七一〇九一六
大牟田市大字田隈950-1
電話 (〇九四四)一五六―一一一九
FAX (〇九四四)一五六―二〇七七
URL <http://www.sugi-hosp.jp>



国家公務員共済組合連合会
新小倉病院

病院長 **塚本 浩**

〒八〇三-一八五〇五
北九州市小倉北区金田1丁目3番1号
電話 (〇九三) - 一五七一 - 一〇三一
FAX (〇九三) - 一五九一 - 〇五五三
E-mail kkr-shinkokura@shin-kokura.gr.jp
URL <https://shin-kokura.or.jp/>



地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院
宗像医師会病院

院長 **伊東 裕 幸**

〒八一一-一三四三一
宗像市田熊五丁目5番3号
電話 (〇九四〇) - 一三七 - 一八八
FAX (〇九四〇) - 一三七 - 〇〇一六
URL <http://www.mmah.jp>

開設 70周年 **聖マリア病院**



理事長 井手 義雄
病院長 谷口 雅彦

福岡県久留米市津福本町 422 番地

聖マリアヘルスケアセンター



理事長 井手 義雄
病院長 井手 睦

福岡県久留米市津福本町 448 番地 5



社会医療法人 雪の聖母会



医療法人社団 江頭会
さくら病院

理事長 **江頭 啓 介**
院長 **江頭 省 吾**

〒八一四-〇一四三三
福岡市城南区南片江6丁目2番32号
電話 (〇九二) - 一八六四 - 一三二二
FAX (〇九二) - 一八六五 - 四五七〇
URL <http://www.sakurahp.or.jp/>



福岡県立精神医療センター 太宰府病院

院長 小嶋 享二



〒八一九一〇一二五
太宰府市五条3丁目8番1号
電話 (〇九二) 一九二二-三二三七
FAX (〇九二) 一九二四-四〇六〇
E-mail info@dazaifu-hsp.jp
URL https://www.dazaifu-hsp.jp/



社会医療法人財団 白十字会

白十字病院

病院長 湊野泰秀

〒819-8511

福岡市西区石丸4丁目3-1

TEL 092-891-2511(代)

FAX 092-881-4491

E-mail hakujuuji@hakujuujikai.or.jp

URL https://www.fukuoka.hakujuujikai.or.jp

ホームページは
こちら



社会医療法人財団 池友会

香椎丘リハビリテーション病院

院長 松尾 義孝

〒八一三一〇〇〇二
福岡市東区下原2丁目24番35号
電話 (〇九二) 六六二-三二〇〇
FAX (〇九二) 六六二-三三〇三
E-mail info@kashii-rh.net
URL www.kashii-rh.net

社会医療法人 弘恵会

ヨコクラ病院

院長 横倉 義典

〒八三九一〇二一五
福岡県みやま市高田町濃施四八〇-二
電話 (〇九四四) 一二二-五八一
FAX (〇九四四) 一二二-二〇四五
E-mail info@yokokura-hp.or.jp
URL https://yokokura-hp.or.jp



HARADOI
HOSPITAL

原土井病院

院長 野村 秀幸

〒八一三―八五八八

福岡市東区青葉6丁目40―8

電話 (〇九二)―六九一―三八八一

FAX (〇九二)―六九一―〇五九

URL <https://www.haradoi-hospital.com>



公益社団法人
福岡県病院協会